第６節　人口の将来展望

県民ニーズ、時代の流れや今後の展望等を踏まえて、出生及び社会移動の状況が改善された場合の本県独自の仮定を設定し、人口の将来展望を描きます。

❶ 出生の仮定

○平成42(2030)年までに若者の「家族の理想」が実現され、合計特殊出生率が1.89に上昇し、さらに平成52(2040)年までに人口置換水準に回復するパターンを想定します。

◆若者の結婚や出産・子育ての希望(「家族の理想」)をすべて実現した場合に期待される出生率である「県民希望出生率*」は1.89となります。(国における「国民希望出生率」は1.83、人口置換水準は2.07)

＊希望出生率＝{(既婚割合×夫婦の予定子ども数)＋(独身割合×結婚希望割合×希望子ども数)}×離死別の影響

※対象は国と同様に18～34歳女性とします。

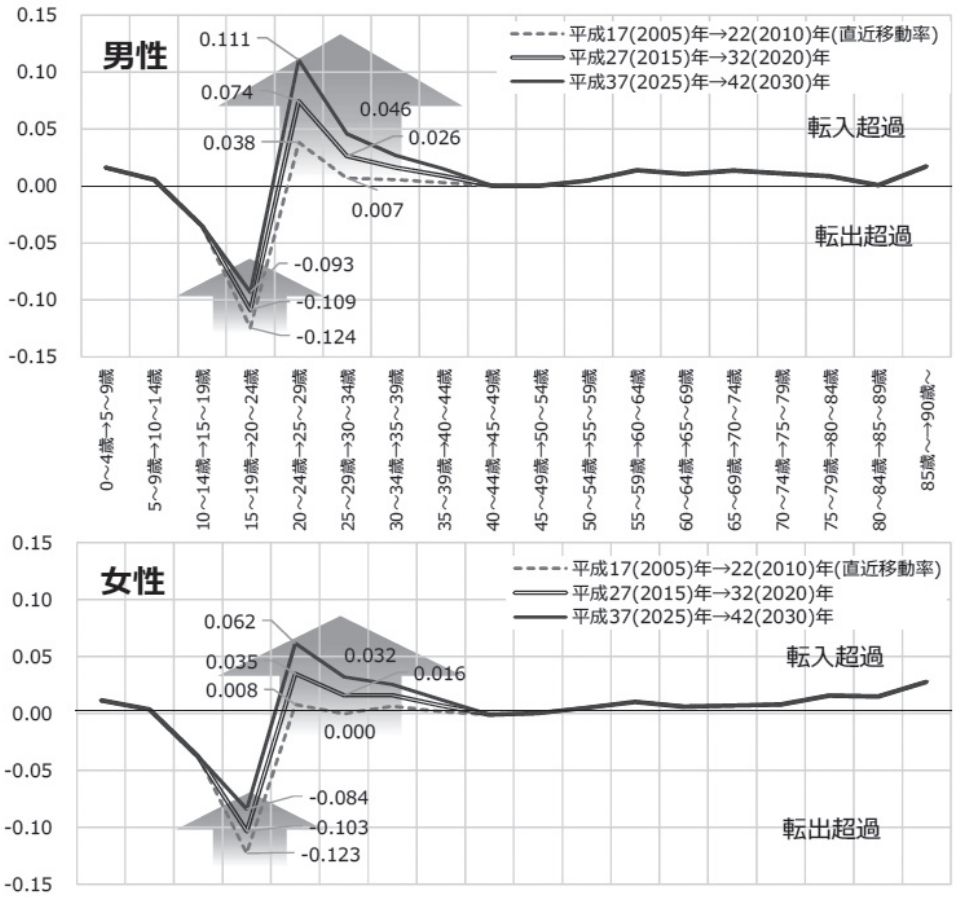
◆理想子ども数については、独身者よりも既婚者の方が多く、また、子どもがいない夫婦よりも子どもがいる夫婦の方が多い傾向があることから、結婚や出産の希望を実現する若者の増加に比例して全体の理想子ども数も増加する“好サイクル”も期待できます。

❷ 社会移動の仮定

○平成42(2030)年までに、若年男女(15～39歳)がいずれも転入超過だった平成２(1990)→平成７(1995)年の水準に回復するパターンを想定します。

◆人口減少克服のための要となる若年男女(15～39歳)を重点的なターゲットとし、直近の純移動率を出発点として、特に20～30代の転入超過を回復させる方向性を想定します。

◆今後超高齢化に向かう東京圏との近接性等を踏まえ、中高年齢層の転入超過傾向は現在と同程度に続くと想定します。



③ 独自推計の結果

○出生や社会移動の動向によって、将来人口は平成52(2040)年に約160～180万人、平成72(2060)年に約120～160万人になると見込まれます。

仮定のパターン	概要	平成52(2040)年の人口推計（うち若年男女*）	平成72(2060)年の人口推計（うち若年男女*）
①現状のまま推移	出生率及び純移動率が現状のまま推移	約160万人（約33万人）	約120万人（約23万人）
②出生率上昇	純移動率は現状のままで、1出生の独自仮定を達成	約170万人（約35万人）	約140万人（約32万人）
③さらに社会移動の状況が改善	②に加えて、2社会移動の独自仮定を達成	約180万人（約39万人）	約160万人（約38万人）

＊15～39歳男女人口